

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成 28 年 11 月発行 No.48 号



ホウオウボク

JICA 研修生を受け入れ



サキシマスオウノキの前で記念撮影

研修生の多くは熱帯地域の国から参加していることから、西表島にある現場等の視察では、気候や植生などの共通性などを感じながら、様々な質問等をしていました。

今回の西表島での経験が帰国後の彼らの活動に寄与できることが期待されます。

平成 28 年度の国際協力機構（JICA）による課題別研修「地域住民参加による持続的な森林管理」コースの研修生を 11 月 8、9 日に受け入れました。

研修生は 11 カ国から 16 名が参加しており、8 日は沖縄県や西表島の森林概況や当センターの活動状況などに関する講義を受講、9 日には海岸林再生のための試験地や巨樹・巨木の一つであるサキシマスオウノキの現地及び亜熱帯林の中を実際に歩いて視察しました。



熱心に講義を受ける研修生

亜熱帯樹木展示林及びマングローブ林を視察

東海大学の依頼を受けて、当センターでは 9 月 10 日（土）に学生 26 名（外引率教授 2 名）を西表島亜熱帯樹木展示林と隣接するマングローブ林内の木道に案内し、西表島の植物等について説明を行いました。

学生達は、北海道キャンパスからの来島だったので、西表島特有の蒸し暑さの洗礼は厳しかったようでしたが、それでも生物学科の学生らしく熱心に展示林やマングローブ林内の動植物を観察していました。

特に、天然記念物「ヤエヤマセマルハコガメ」との遭遇には感激度が高かったようでした。



熱心に説明を受ける学生

船浦中学校のテドウ山登山を支援

11月3日（木）、竹富町立船浦中学校のテドウ山登山が実施され、当センターと租納森林事務所は森林環境教育の一環として参加し支援しました。

登山を通して自然の素晴らしさ、厳しさ、環境問題等について考える機会とし、助け合う心、励まし合う心を育てることにより友情の輪を広げると同時に長丁場における忍耐力を養い、また、生徒・保護者・教師・地域の方々と触れ合う機会とすることを目的に生徒20名及び保護者、職員等総勢54名が挑戦しました。

当日は出発前に雨が降り出してどうなることかと思いましたが幸い雨も上がり、8時に集合し浦内川河口で出発式を行った後、4班に分かれて遊覧船で軍艦岩まで移動し、9時頃に軍艦岩を出発しました。

途中、「日本の滝百選」に選ばれているマリユドゥの滝展望台での記念撮影やカンビレーの滝で休憩した後、引き返す人たちに見送られながら10時過ぎにテドウ山頂を目指し登山を開始しました。急斜面ではロープを使用して登ったりしながら、12時頃頂上に到着しました。

昼食や記念撮影の後手作りの看板を設置し、12時30分には下山を開始しました。下山を始めてすぐのところでは船浦中学校を眺望し、急斜面で滑り川の中を歩き泥だらけになりながら、また、途中でピナイサーラの滝上を見学し、全員が無事駐車場に到着し、その後学校まで走って帰る生徒もいました。

解散集会の中では「キツかったけど船浦中学校やいろんな景色が見られて横断の時より良かった」等の意見が聞かれました。また、保護者や随行者に対し感謝の言葉がたくさん聞かれました。



テドウ山頂での記念撮影



ピナイサーラの滝上

アメリカハマグルマ駆除手法試験 〈外来種〉

日本では1970年代から沖縄の各地に緑化植物として導入され、野生化しています。世界的にはマングローブや海岸植生といった希少な自然環境に侵入し、在来種や生態系を脅かしており、侵略的な外来種となっています。

西表島でも、至る所でマント状に繁茂したアメリカハマグルマが見られ、希少種の衰退が危惧されているところです。



アメリカハマグルマ



防草シートで覆ったアメリカハマグルマ

アメリカハマグルマの繁茂が著しい大富歩道に、駆除手法を検討するため試験的に

- 防草シートで覆う（耐陰性）
- モクマオウの葉で覆う（耐陰性）
- 塩化カリウムを撒く（耐塩性）
- ピートモスを敷き食酢水溶液を散布（耐酸性）

試験地の設定を行い、アメリカハマグルマに与える影響を観察していきます。

平成 28 年度森林・林業の技術交流発表大会

10 月 18・19 日の両日に、九州林政連絡協議会が主催する平成 28 年度森林・林業の技術交流発表大会が熊本市において開催されました。

2 部門の「森林技術部門」「森林保全、森林ふれあい部門」の二会場に分かれ 40 課題の発表があり、九州沖縄各県の森林・林業を学ぶ高校生、局・署の職員等、両日で延べ約 500 人の参加がありました。

「森林保全、森林ふれあい部門」において、当センターの山部国広森林生態系指導官が「仲間川木道周辺マングローブ林等モニタリング調査について」と題し、国の史跡名勝天然記念物に指定されている日本最大規模のマングローブ林が広がる「仲間川天然保護区域」において、森林環境教育活動の拠点として設置された木道施設の利用状況や木道設置に対する周辺環境への影響等のモニタリング調査を実施した結果について発表を行いました。

結果、九州林政連絡協議会会長賞「優秀賞」を受賞しました。

今後も、当センターが取り組んでいるモニタリング調査など各業務について各種発表会・研究会等で発表するなど PR に努めたいと考えています。



発表する山部さん

船浦ニツパヤシ希少個体群保護林のモニタリング調査を実施

平成 17 年から実施してきた「船浦ニツパヤシ希少個体群保護林のモニタリング調査」については、平成 27 年度「最終報告書」が作成されました。

今後のモニタリング調査には、ニツパヤシの葉・幼葉の発生状況、定点写真撮影、マルチコプターを利用した上空からの写真撮影、周辺の環境状況等の調査について引き続き実施していきます。

今回 10 月 26 日(水)にニツパヤシ群落において生育状況等の調査を実施しました。

当年度、6 月に続き 2 回目の調査でしたが、幼葉の発生や葉の生育状況等、旺盛で順調に成長しています。



順調に生育しているニツパヤシ群落

西表島のニツパヤシ群落は、世界のニツパヤシの自生地北限として、植物地理学上重要であり、個体数が極めて少ないことから、レッドデータリスト（環境省）では絶滅危惧ⅠA類に指定され、自生か移入かは明確ではありません。

おそらく黒潮海流によって、ニツパヤシの自生する南洋諸島やフィリピン諸島などから種子が流れ着き、西表島の河川域に定着・発芽したのと考えられています。

西表島に生息する外来種

シロアゴカエル



両生綱無尾目アオガエル科 シロアゴカエル属

東南アジア原産の体長 5～7cm の中型のカエルです。沖縄では 1964 年に本島中部で初めて見つかりました。分散能力が高く、沖縄諸島や宮古諸島の多くの島々では既に定着し、蔓延してしまっています。2007 年夏に、八重山諸島では初めて石垣島に侵入していることが判明しました。その他にもこれまで定着が知られていなかった、北大東島や粟国島でも相次いで発見され、これらの地域でも地元自治体と協力しながら早期の対策により、島から排除することができないか、検討しています。駆除は成体(カエル)の捕獲及び泡巣(卵)の除去が有効と考えています。

西表島での生息に関する情報については西表自然保護官事務所、石垣島については石垣自然保護官事務所、南北大東島・粟国島については那覇自然環境事務所までご連絡下さい。

(引用：那覇自然環境事務所)

侵入生物 / 外来生物とは？

人間によって自然分布域以外の地域に移動させられた生物を「外来生物 / 外来種」「侵入生物 / 侵入種」「移入生物 / 移入種」などといいます。貿易大国の日本では、これまでに 2000 種を超える外来生物が記録されています。外来生物は、移動先で繁殖集団を形成し（定着または帰化と呼ばれます）、その土地の生態系・農林漁業・人間の健康や日常生活などに対して影響を及ぼすことがあります。大きな影響を及ぼすものを、特に「侵略的外来生物」といい、世界的な問題となっています。

原因は何か？

外来生物問題が生じる原因は、様々な形で人為的に生物が運ばれ、野外に放たれること（導入と呼ばれます）です。導入されたものの一部が、野外で繁殖集団を形成し（定着と呼ばれます）、長期にわたって様々な影響を及ぼすようになります。運ばれ方（侵入経路・導入経路）は様々ですが、いずれも我々の日常生活と密接に関係しています。運ばれ方によって予防方法が異なるため、導入経路の特定は、防除戦略を立てる上で重要な課題の一つです。

その影響は？

外来生物による影響は、運ばれる生物の種類と定着先の環境の組み合わせによって様々です。生態影響（その地域在来の生物多様性・生態系への影響）のほか、外来生物の持ち込みによって、いわゆる害獣・害虫・雑草などと同様の農林水産業被害・人間への健康被害を新たに引き起こすこともあります。

(引用：国立環境研究所 侵入生物データベース)

ホウオウボク (マメ科) 鳳凰木 *Delonix regia*

原産はマダガスカル島。主に熱帯地方で街路樹として植えられており、ここ石垣でも街路樹として植栽されています。

初夏から秋、緑陰を作り、うだるような暑さを跳ね返すような鮮やかで豪華な花を咲かせています。

総状花序に鮮朱赤色の五弁花を咲かせ続け、樹高は 10-15m、樹形は樹冠が傘状に広がり、葉は細かい羽状複葉、直径 10cm ほどの 5 弁で緋紅色の蝶形な花が、総状花序につきます。



西表島の似たものの植物

サガリバナ

V s .

タカサゴシラタマ



区 分	木本類
分 布	鹿児島(奄美大島、徳之島)、沖縄、八重山諸島、中国南部、台湾
葉 の 形	長楕円形
葉 の 縁	全縁、鋸歯
葉の付方	束生
実の種類	そう果
花・萼 色	白色、桃色

区 分	木本類
分 布	西表島、石垣島
葉 の 形	長楕円形
葉 の 縁	鋸歯
葉の付方	互生
実の種類	液果
花・萼 色	白色、淡い桃色

説 明	河川沿いや湿地に群落を作ることが多く、高さ約10m程度になります。葉は長楕円形で長さ30cm位になり、秋には紅葉することもあります。花は白または淡い紅色で4枚、桃色をした雄しべが多数ついており、川面に落ちた姿は幻想的です。実は卵形でやや四角ばり、長さ5～6cmです。落下した実は水に浮かぶようになっていて、流され着地し発芽します。
-----	--

説 明	山野に生育し、高さ5mに達する小高木で、小枝には剛毛があります。葉は互生し長楕円形などで長さ10～30cm、幅4～11cmです。葉の縁は刺状の鋸歯があり、両面とも褐色の毛が生えています。花は枝の葉腋の跡から白色または淡い桃色で径1～1.5cm、1個から4個集まって咲きます。実は液果の球形で径約1cm、白色に熟します。
-----	--

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

